

## 都道府県立図書館の公立高等学校との連携のあり方

栗原 有李

公共図書館と学校図書館との連携においては、文部科学省の現状調査から連携を実施している学校の割合が増えており、より連携に力を入れるようになってきていることが窺える。しかし、最新の現状調査における連携を実施している学校の割合は、小学校以外は50%未満となっており、特に高等学校における連携状況はもっとも実施率の伸びが低い。そしてそのなかでは、都道府県立図書館との連携が最も盛んである。

そこで本研究では、都道府県立図書館の高等学校との連携における取り組みと課題を明らかにし、連携の実施率を高めるための方法を考察することを目的として研究を行った。

研究方法は、二つの文献調査を行った。一つ目の文献調査では、高校生・高等学校に対する図書館サービスの都道府県立図書館における実施状況について、各都道府県立図書館が発行した年報や事業報告書等を用いて調査を行った。そして、明らかになった結果から課題について考察した。次に二つ目の文献調査として、都道府県立図書館と高等学校との連携について特に活発な連携を行っている図書館に関して、年報や事業報告書、雑誌論文等を用いて調査を行った。そして、どのような図書館か、どのような取り組みを行っているか、どのような特色があるかをまとめ、比較考察した。

一つ目の文献調査の結果、高校生・高等学校に対する図書館サービスの都道府県立図書館における実施状況については、相互貸借、長期一括貸出、フロアのコーナー化、図書リストの作成、広報活動、資料展示・展示会、行事・集会活動、利用教育、研修、運営相談、レファレンスサービス、コレクション構築、協力車の学校巡回という項目を立て、高等学校に対しての実施の有無をまとめた。結果は、全体的な観点から見ると不足していることがわかった。資料提供である相互貸借や、長期一括貸出と、利用教育である職場体験やインターンシップの受け入れなどの限られたサービスが提供されているだけで、そのほかの項目の実施に関してはほとんどの都道府県立図書館で確認できなかった。次に、二つ目の文献調査として、特に活発な連携を行っている鳥取県、千葉県、大阪府立図書館の取り組みをまとめ、比較考察した結果、事業報告において高等学校支援事業が確立されていることや、高校生向けの特色ある取り組みを行っているということが共通の事例としてみられることがわかった。そして、これらの取り組みの背景を検討した。

以上のことから、都道府県立図書館では、柱となる事業として高等学校支援に力を入れた予算を割り当てること、学校図書館に関する連携組織との積極的な関係づくり、図書館内での部署や課という組織の枠組みにとらわれない取り組みなどを行っていくことが、今後の一つのあり方として提案できるのではないかと見える。

(指導教員 平久江祐司)